

7月17日 長野県林業大学校の現地学習 【木曽ふれあい推進センター】

当センターでは県内外の教育機関等からの要請により木曽谷の国有林を活用した自然観察学習の支援を行っています。

今回7月17日に長野県林業大学校の1年生20人が、林業概論の授業で天然ヒノキ等の美林がある赤沢自然休養林（木曽郡上松町小川入国有林）を訪れました。この授業は森林・林業に関する総合的な学習の一つで、既に訪れている鹿児島県屋久島の屋久スギと木曽の天然ヒノキとの森林状態等を比較することを目的としていました。

当日は雨が降りしきる生憎な天気でしたが、当センター職員の案内により木曽地方の森林の成り立ちや林業の歴史、中部局が木曽ヒノキ等で構成された温帯性針葉樹林の保護・復元のために設定した「木曽悠久の森」の取組等について林内を巡りながら学習しました。



森林鉄道終点「丸山渡」にて木曽五木の説明を受ける

森林鉄道終点「丸山渡」にて木曽五木の説明を受ける

案内を担当した職員の中には林業大学の先輩もいたことから、学生たちからは今後の学習や進路についての質問も数多く寄せられました。

先輩からは学習アドバイスはもちろんのこと、国有林職員として一人でも多くの生徒が同じ職場で活躍できるようPRすることもできました。

余談ですが、木曽ヒノキを始めとする木曽五木の名前を覚えてもらうために、地元の民謡「木曽節」の6～7番を先輩職員が披露する場面があり、雨の中でしたが和やかな現地学習にもなりました。



雨の中先輩職員から説明を聞く学生